無着東里

18歳、ぼくの板前修業

18歳、ぼくの板前修業

無着東里

作品社

18歳、ぼくの板前修業
一九八一年三月一五日第一刷発行
一九八一年六月二〇日第二刷発行
著者　無着東里
発行者　堀田佐久夫
発行所　株式会社　作品社
制作・作品企画
東京都千代田区飯田橋二ノ七ノ四
〒101　電話(03)二六二ノ九七五三
振替口座（東京）六ー二七一八三
印刷——図書印刷
製本——図書印刷
定価——八八〇円
©Tori Muchaku 1981

18歳、ぼくの板前修業——目次

自己紹介　7

〈PART I〉翔んだり落ちたり

18歳の〝居そうろう〟　15

ズッコケ「学歴」　21

日記——その一　36

めぐり〝愛〟　42

〝キ〟まじめなバイト　55

恋の報酬　66

オトコはつらいよ　85

日記——その二　106

〈PART II〉〝アタック！〟くだけろ

「らッしゃあい」　117

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

デモシカ学校 127
初体験 133
日記——その三 141
庖丁と花ばさみ 151
もう一人の新米 158
日記——その四 170
ホップ・ステップ……178

〈PART III〉ハウ・ツウ・クック・ザ・青春

スミ焼料理 189
人間サンドイッチ 201
2プラス1＝？ 211
日記——その五 220
新たなジャンプ 232

画　内藤英治
装丁　岸顕樹郎

18歳、ぼくの板前修業

自己紹介

無着東里

ぼくは無着東里。トウリ、と読む。

父、無着成恭、母、ときとのあいだに、昭和三十四年に生れた。

現在、身長一七六センチ。体重五七キロ。

ちょっとカッコよくいえば、スリムなからだつきだけど、小、中学時代のアダ名は「カトンボ」。

ぼくの名前のユライは、

「桃李言ワザレドモ下自ラ蹊ヲ成ス」

という、中国の司馬遷が書いた『史記』の中から、父がつけたのだそうだ。

意味は、桃や李は何もいわなくても、その美しさにひかれて、人々が集まって来て、木の

下には自然に小さな道ができるものだ、ということらしい。
けれども、市役所では、このままの字では受けつけないので「東里」とした。戸籍では「とうり」。
ぼくなんか、もちろんそんなりっぱな人間じゃないから、なんだかテレくさいけど、そういう魅力のある人物になりたいとは思っている。
父が書いた『禅に学ぶ』という本に、
「数学の世界においては、1/9は〇・一一一……であり、2/9は〇・二二二……である。そして、8/9は〇・八八八……と続く。
しかし、9/9は〇・九九九……ではなく『1』という割り切れる数となる。だが、人間にとって、9/9はあくまで〇・九九九……であり『1』にはならない」
といった一節がある。
父は、まァ仏教にもくわしいし、これも仏教的な考え方なのかもしれないが、ぼくは同感だと思っている。
ぼくはまだまだこの意味がよくわかっていない、わかるほど大人になってもいない。
でも「〇・九九九……」という現実の人生の中で生きていても、どこまでも「1」という理想を追いもとめ、いつも前進してゆきたいと心がけるようにしている。
なんていったりすると、マジメ人間ととられかねないが、中学、高校のときは相当なワル

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

で、しかもいまだにかなりのピーマン野郎だ。『山びこ学校』なんか、途中まで読んだが、アクビが出て放り投げてしまった——もっとも、ぼくはまだ中学生だったけれど。

大体、ぼくはノンキで単純で、おまけにオッチョコチョイだ。

幼稚園のころ、左右をたしかめないで道路に飛び出し、車にはねられ、何日か意識不明だった。気がついたら、病院のベッドの上で、全治約一ヵ月の重傷。

趣味もこれといってないが……そう、やっぱり酒かな。とにかく、高校時代から飲んでいる。ギターはフォークからロックまで、いちおうこなす。

好きな食べ物は、肉類。それと、アブラののった魚、ブリ、ニシン、イワシなど。また、タマゴ料理なら、ただのメダマ焼でもいい。きらいなのは、インゲン。青虫に似てるから。

得意な学課は、数学。ダメなのは英語。これは、先生が気にくわなかった。よくサボって、井の頭公園でタバコを吸ったりした。タバコは中三ぐらいでおぼえた。

ところで、ぼく自身の紹介について、父のことを引き合いに出しているが、なにも全面的に認めているわけじゃない。

なるほど、父はその方面で——といっても、どの方面かハッキリとは知らないが、わりとカツヤクしているらしく、ラジオの電話相談などで、

「モスモス……」

なんてやっている。

一種の〝有名人〟にはちがいない。たしかに、教育者としては、家のそとではいかにも物わかりのいい人物のように思われている。いや、ぼくにたいしても、じっさいにこういったことがある。

「オンナを抱いてもいいが、子供はつくるな」

これが中学生のときだから、オソレいる。

だけど、家庭ではけっこうよその親と変らない面もある。

しかし、その父、無着成恭に、ぼくは絶大な影響をうけている……良い意味でも、悪い意味でも、だ。ただ、いざというときには、ほんとに頼りになるオトコである。

でも、現在のぼくは、そうした父に感謝の気持をもつとか、親孝行をすることはできない。父もまた、そんことは望んでいないだろう。

正直いって、ぼくはいまでも真実の父を知らない。それよりも、まだ真実の自分を知らない。自分自身のことがわからないくせに、いくら相手が父でも、何かしてあげるなんてオコがましいし、できっこないと思う。

そうだ、ついでに、ぼくの家族を紹介しよう。

父、無着成恭。五十四歳。明星学園、初等部、中等部の教頭。

母、とき。四十七歳。いまも東大附属病院の看護婦として働いている。

姉、あゆみ。二十四歳。学習院大学の大学院生。専攻は仏文。

以上、ぼくをいれて、四人家族。
どっちの親に似たのか、ぼくは涙もろく、その反面、強情っぱりなところがある。
さて、おしまいに、ぼくの賞罰？　高校二年生のとき、三日間の謹慎処分。

〈PART I〉 翔んだり落ちたり

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com